

日八月三刊タ



## 石城郷軍聯合分會 勅令第一回評議會

昨七日平町マルトモにて

石城郡郷軍聯合分會では昨七

日午前九時半から平町マルトモにて評議會を開き藤田聯合分會長より軍民離間の自重と警戒及び勅令による統制強化に關して特に力説された訓示の後議案九項の附議決定を終つたが重なる件目は東部射撃場の改築工費八百圓外設備費を合せる一千二百圓の原案を可決と昭和十二年度豫算千五百七十九圓九十二錢並びに後員改選は聯合分會長副分會長松本幸平少尉(平)再選、同副分會長高木善枝中尉(渡邊)新選の外左記を決し小名瀧分會の前分會長立花秀吉氏の分會長七ヶ年勤続表彰會議終了の午後三時から植松海軍少將の「時局と南進政策」を題する講演あり五時の閉會と同時に磐中配屬將校大井川中佐の縣聯司令部轉任と同中村中佐の着任並び平商業團屬佐藤大尉の原隊復歸に對して歓送迎會を催して歓會したが石城聯合分會は錦村昭和人絹工場に於て去り大井川中佐は今回の轉任に際し聯合分會に金一封(金廿圓)を寄附された。

理事吉田憲英(平塚)神原多博(神谷)志賀要平(小名瀧)

藤井一(平)小泉英次(平)大間喜繁(同)三浦富美男(同)

▲監事松田寛(入山)羽岡平少佐(以上)

支部審議員藤田中尉 四家

少佐(以上)

藤井一(平)赤建一(勿來)△

▲監事松田寛(入山)羽岡平少佐(以上)

三郎(小川)赤建一(勿來)△

支部審議員藤田中尉 四家

少佐(以上)

茨城縣の

年產三千七百萬本  
縣茨城の桑苗は昨年度二千七百萬本を生産し桑苗の王國として知られてゐる愛知縣をおさへて全國に範を張るるを至つた實に目まとい發展であるが、しかも往來馬ばるため非交易性のものとされてゐた桑苗が見事にこの定理を打ち破つて、  
茨城縣桑苗は運賃を差引いても尚ほ安價な點から遠く中國地方にまで移出されてゐる。此の原因は安價なことと地の利を得てゐることではあるが特に見逃がし得ないものは同縣の桑苗の採苗形式に於て代出しが其の八割までを占めてゐることに因ると見られてゐる、此の代出の特長は雪害に強いことで最近特に東北地方の雪の被害著しいことからどうしても代出でなければならぬと強調され又病害の點から見ても茨城桑苗には胴枯れ病が殆んど認められないことが判明した、茨城桑苗の品種は改良風返しが約五割を占めておりこの品種の共通性もまた交易の、

れば左の如くである、

長晉一百萬本  
柄木一百萬本

便利で  
經濟な  
**日下家政婦會の**

身元確かで品行方正ですから  
何をお任せしてもご安心下さい  
下さいませ

御加入を御説  
ひ御  
致しを御説  
授綱暇派出  
致物を御説  
しを御説  
御縫さ閑  
きを御説  
す御式を御説

江戸家政婦會  
會長　田中千子  
新設　電話　二二二三番

近し新學期愈々  
手提力バン  
ランドセル  
入學用品！  
豊富陳列

卷之三

西 沼 蔊 雨 風 町 田 里 平

集 葬 徒 生

|          |          |                       |
|----------|----------|-----------------------|
| 文部大臣     | 認可       | 平陽女學                  |
| 一、科外生    | 1、洋      | 二、本科一年<br>（二ヶ年卒業）五十名  |
| 二、入學願書提出 | 2、タビ・リスト | 三、技藝科二年<br>（二ヶ年卒業）二十名 |
| 一、新學期開始  | 三月三十一日まで | 四、專攻科<br>（二ヶ年卒業）二十名   |
| 即刻       | 四月一日より   | 五、各科二年<br>（補缺入學）若干名   |

集 裏 律 生

|             |                |           |
|-------------|----------------|-----------|
| 一、本科        | 五十名            | 二、數理專修科百名 |
| 三、專攻科       | 三十名            | 四、師範科二十名  |
| 五、本科        | 數理專修科第二學年補缺若干名 | 六、洋教科若干名  |
| 平野田町（電話三二八） |                |           |

大本營醫院

產科醫學博士婦人科五十風雜一

平町新居町〔電話三六九番〕